1933

シリーズ とやま20世紀

昭和8年10月8日(日)

空の時代の幕開け 富山飛行場が開場

婦負郡倉垣村(現:富山市布目)で建設が進められていた県営富山飛行場が完成し、この日、開場式が挙行された。翌年5月には、全国初の地方航空路線として東京便が就航、名古屋と大阪への路線も開設されたほか、満州や朝鮮への路線の構想もあった。飛行場は、富山県を「対岸との交通通商の中心地たらしむ」ことによって「本県繁栄の一大基礎」を築くものとして大きな期待を集めたのである。しかし、やがて太平洋戦争が勃発。飛行場は軍用化され、敗戦後は農地に復元されてしまった。富山県に再び空の時代が訪れるのは、現在の場所に富山空港が開港した1963(昭和38)年、対岸諸国への航空路線としてソウル便が実現するのは1993(平成5)年のことである。

開場当時の富山飛行場